

動きで彩られる自然都市

- 私の健康が、まちを健康にする -



運動・スポーツは何のためにあるのか。健康のためか、仲間とのつながりのためか。答えは無限にある。それは時に、自分自身を支えるものであり、時に、街に活気を生み出すきっかけにもなる。ひとりの動きが景色を変え、多くの人の活動が重なり合うとき、その街は表情を持ち、息づき、魅力を増していく。私の健康が、まちを健康にする。それこそが、運動・スポーツの新しい可能性である。

1. スポーツに対する思想と課題

運動と健康まちづくり

運動は何のためにあるのか。突き詰めれば、人間が「豊かに生きる」ための手段にほかならない。この「豊かさ」には二つの側面がある。ひとつは、身体と心の基盤としての内なる豊かさ、つまり健康や精神の安定。もうひとつは、他者との関わりや日常の喜びとしての外なる無数の豊かさ一人と交流する、美しい景観を楽しむなど。運動は、この両者を同時に支える稀有な営みである。

そして、私たち一人ひとりが豊かに暮らすとき、その場には多様な人間活動が生まれる。これはつまり、まち自身が豊かで健康になったということにほかならない。そのためには、市民が日常的に運動できる基盤を街の中に整えることが必要である。

課題

① 運動の課題

- 継続困難 心理的抵抗
- 準備負担 時間的制約
- 孤立 動機欠如

② まちの課題

- 気候制約 安全性低下
- 空間不足 制約的制約

2. 対象地概要 -兵庫県神戸市東灘区石屋川

本提案では、神戸市石屋川周辺エリアを対象とする。石屋川は六甲山を源に、灘区と東灘区の境を流れて海へと注ぐ川である。周辺にはかつて石材加工職人が集まり、御影石と呼ばれる貴重な石資源の加工が行われてきた歴史があり、また灘区は日本有数の酒造りの地としても知られるなど、長く文化や産業が営まれてきた地域である。現在は、川沿いに遊歩道と公園が整備され、春には桜並木が人を集める。

しかしその賑わいは一時的で、日常的な活動は限定的である。都市の魅力にさらに高めるには、ここに「人の活動」というレイヤーを重ねる必要があり、その促進にもっとも有効なのがスポーツだと考えた。

スポーツの視点で街を見直すと、活動の受け皿として公園が浮かぶ。そこで公園を基点としながら、街角や道路、川沿いの遊歩道までを運動のフィールドとして再編していく。

このエリアを選定した背景には、JR 灘駅前広場や王子公園の再編など、灘区で都市更新が進み、新たな価値づけが求められている状況がある。また周囲に学校が多く多様な活動を生み出すことができる可能性を秘めている。石屋川を軸にスポーツというレイヤーを重ねることで、歴史ある街並みに日常的な活気を生み出し、都市の魅力向上につなげたい。

神戸市として 神戸市は基本計画において「海と山が育むグローバル貢献都市」を掲げている。石屋川は、六甲の山から海へと注ぐ中で人々の営みを育んできた、神戸の自然と都市をつなぐ象徴である。

また近年、灘区・東灘区では外国人住民が大きく増加しており、多様な人々が共に暮らす環境づくりが課題となっている。

スポーツは言語や文化を超えて共有できる活動であり、異なる背景を持つ人々をつなぐ有効なツールである。本提案では、石屋川の自然条件を活かし、スポーツを媒介として多様な人々が交流する場を創出することで、神戸の掲げる国際性豊かな都市像と整合させる。



3. 場の課題

- ① 石屋川沿いの賑わいと空間の一体性の欠如
- ② 独自性に欠ける公園空間
- ③ 歩道利用の安全性の低下
- ④ 川沿い遊歩道の快適性

4. コンセプト

- ① 包摂性 / Inclusiveness
- ② 参加可能性 / Accessibility
- ③ つながり / Connectivity
- ④ 愛着 / Civic Pride
- ⑤ 持続可能性 / Sustainability
- ⑥ 環境適応性 / Climate Responsiveness

5. 提案

① 道路の再編

歩行者・自転車・自動車が安全に共存できる道路を再編する。歩道上に自転車レーンを設けた現状を改め、歩道より一段低い位置に自転車専用道を設置する。自転車道と車道間に植栽帯を挟むことで動線を明確化し、安心して通行できる環境を形成する。これにより、歩道を利用するランナーも安全かつ快適に走ることができる。

③ 給水機とスポーツ用品貸し出しBOX

まちの各所に給水機を分散配置し、市民がいつでも安全な水を得られる環境を整備する。夏季の熱中症対策にも寄与し、安心して運動できるまちの基盤をつくる。また、公園にはボールやラケットなどのスポーツ用具を収めた貸出ボックスを設置する。モルックなどのマイナー競技の道具も備えることで、多様なスポーツ文化の普及を促す。公園の規模や特性に応じて設置内容を調整し、適切な遊びを適切な場所で行える環境を整える。さらに、使い方が固定されていない道具も加えることで、市民自らが新たな遊びやスポーツを創り出す契機とする。

⑤ 地域連携型スポーツアプリ「ROKOMO (Rokko Move)」

市民の運動を可視化・促進するプラットフォームとしてアプリ「ROKOMO」を普及させる。ROKOMOで出来ること

- 運動によって健康ポイントが貯まり、「こうべ旬菜」と交換可能
- ポイントはイベント参加・器具貸出・歩数・市施設利用で蓄積
- マップ機能により給水スポット、公園、イベント情報を一括把握
- 仲間募集掲示板でバスケ・サッカーなどの参加者を簡単に募集

② 歴史をめぐるコース

石屋川沿いに、地域の歴史や文化を辿るランニング/ウォーキングコースを整備する。沿道には、震災記念碑や「火垂るの墓」の石碑など、街の記憶を伝えるポイントを巡れるよう遊歩道を再構築する。また、各地点にはQRコードを設置し、動画や音声によるわかりやすい解説を提供することで、子どもから大人までが身近に歴史を学べる仕組みとする。運動を通して地域の魅力を再発見し、市民が自らのまちに愛着と誇りを持つ環境を創出する。

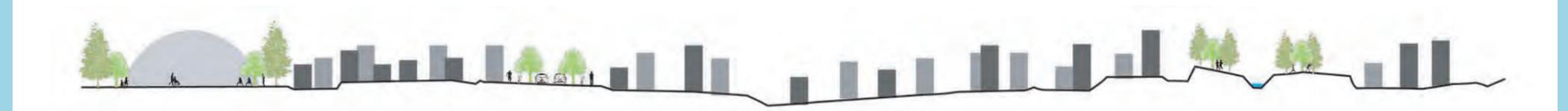
④ 公園カフェの設置

Park-PFIを活用し、公園内に小規模なまちのレストランを設置する。運動後に気軽に立ち寄れる休憩・交流の場を提供するとともに、「カフェを訪れるついでに運動する」といった新たな動きの種を生み出す。食材には「こうべ旬菜」を活用し、市民の健康促進と地域産品の消費拡大を両立させることで、持続可能な地域循環型のまちづくりを推進する。

⑥ 学生と市民が共創するスポーツイベント

本提案では、中学生から大学生までの学生が、市民とともにスポーツを楽しむイベントを継続的に実施する。学校内に閉じがちな活動を街へ開くことで、多世代の交流と新たなスポーツ文化を育む。行政・教員・NPOなどが運営を支え、学生の主体的な参画を促す。若い世代が地域と関わることでシビックプライドを育み、将来的には自ら企画・運営を担うリーダーへと成長することを目指す。

6. 断面図 (大和公園～石屋川)



寿公園

北側は開放的な芝生広場となっており、日常的なピクニックやストレッチ、軽い運動など、思い思いの過ごし方ができる空間である。南側には小さなコートが2つ、さらにもう1つのコートと5台の卓球台が設置され、年齢や目的に応じて多様なスポーツを楽しむことができる。また、子ども向けの遊具も備わっている。公園の中央を横断する大通りを通ると、コートで遊ぶ人や卓球に励む人、遊具で笑い合う子どもたち、北側の木陰でストレッチをする人など、多様な「動き」が視界に入り、場全体にぎわいと活気が生まれる。



ネットがあるから、ボールラケットを使ったスポーツも思いやりあふれるコートにはバドミントンコートやネット付きの設備も揃っているから、友達と遊ぶだけでなく、練習もできるし、いままのスポーツに挑戦できるんだ!

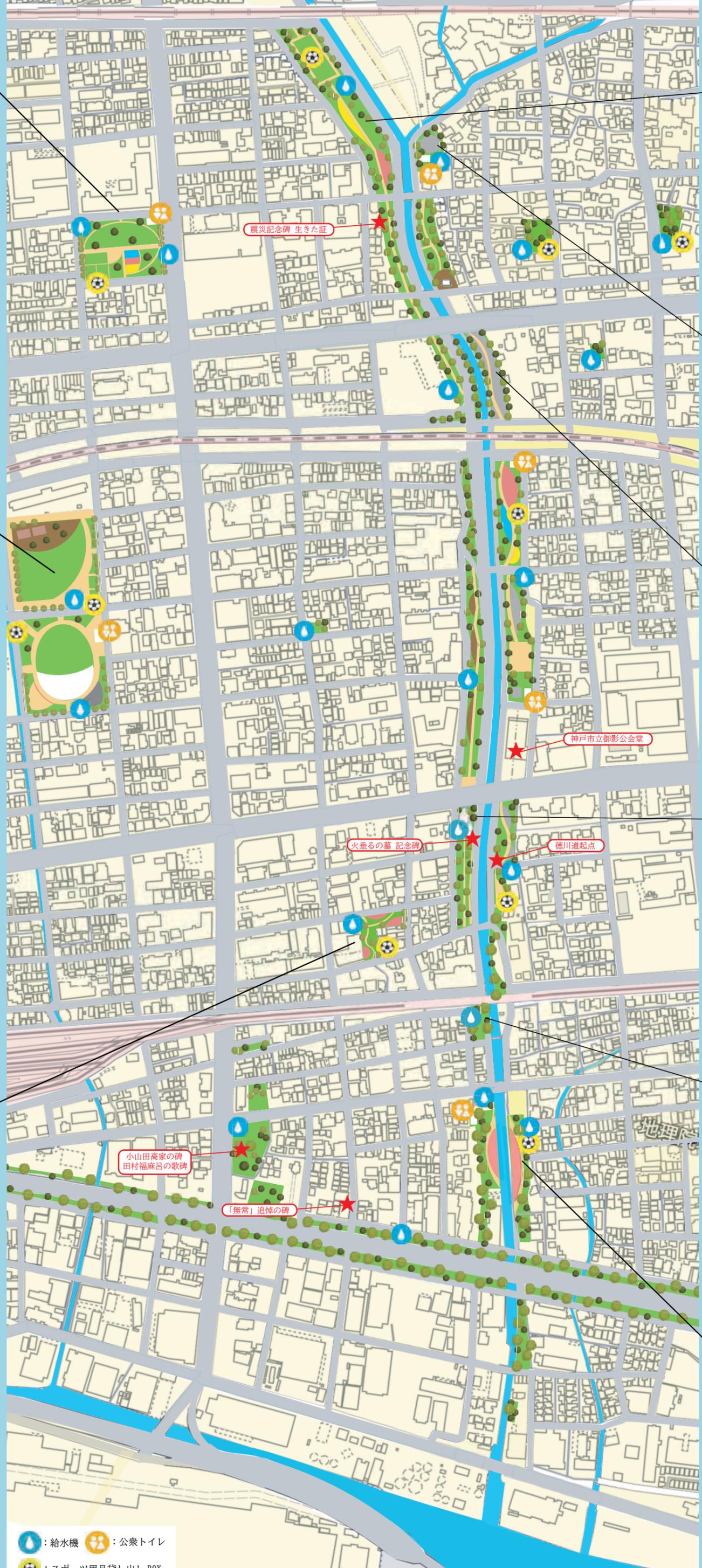
大和公園

北側にはデッキ付きの公園カフェがあり、カフェのメニューを屋外でも楽しみながら、公園で繰り広げられる多様なアクティビティの様子を眺めることができる。また、北エリアには小さなコートが2つ設けられ、バスケットボールやネットスポーツなども楽しめる環境となっている。南側には大きなドーム型の屋根が芝生広場の半分を覆っており、ステージとしてスポーツ観戦やインストラクターと行うヨガ・エクササイズなどの大型イベントに活用できる。また、何も催されていない時間帯でも雨除けとして機能し、雨天時でも安心して公園での運動やアクティビティを楽しめる。両エリアとも広い芝生を有し、市民が自分のやりたいことを自由に行える余白を残すことで、日常の利用からイベント時まで多様な「動き」を誘発する空間を形成している。



記田公園

本公園は周囲を建物に囲まれ、静かで落ち着いた雰囲気を持つ。健康器具や卓球台3台、子ども用遊具が点在し、木陰ではエクササイズや軽い運動を楽しむことができる。公園の前を通る人からも中の様子が見えるように配慮されており、まちとのつながりを感じられる。影の多い環境は涼しく、小規模な公園であるため、ゆったりとした過ごし方や読書など、運動以外の活動にも適した場所となっている。



: 給水機
 : 公衆トイレ
 : スポーツ用品貸し出し BOX

石屋川公園

約1.5kmに及ぶ石屋川公園において、各場所がそれぞれの個性を持ちながらも、全体として一体的な流れを感じられるよう、川沿いに連続する6つの広場の整備を提案する。

運動広場

テニスコート2面とネット付きの小さなコート2面が整備されており、年齢やレベルに応じて多様なスポーツを楽しむことができる。さらに、遊歩道沿いには健康器具や子ども用遊具が点在し、ランニングやウォーキングの合間に気軽に身体を動かせる環境が整っている。



噴水広場

公園の中央には大きな噴水が配置され、散歩やランニングの休憩スポットとして多くの人が集う。水音が心地よい空間をつくり、周囲の自然と一体となったりリラックスできる雰囲気を出している。



石の広場

この広場では、無造作に配置された石が空間のアクセントとなり、子どもたちの遊び場にも、大人の目を楽しませる景観要素にもなっている。歩くと石の存在がまちの記憶を思い起こさせ、日常のなかで地域の歴史を感じられる場を形成している。



光の広場

人通りの多い山手幹線沿いに位置し、石屋川公園の玄関口としての役割を担うエリアである。この場所を照明によって演出し、夜間も安全かつ魅力的に過ごせる空間へと再整備する。夜でも安心してスポーツや散歩を楽しめる「光に包まれた公園の入口」を形成する。



憩いの広場

阪神石屋川駅からすぐの立地にありながら、これまで閑散としていたこの公園を、駅利用者が気軽に立ち寄れる場に再整備する。ベンチや健康器具を設置し、仕事や学校の帰りにひと休みしたり、軽い運動を始める環境を整える。通勤・通学動線にある日常的なリフレッシュの場として、公園の新たな使い方を提案する。



あそびの広場

これまで魅力的な整備がなされず、やや閑散としがらだった阪神線以南のエリアを、子どもたちがのびのびと遊べる「あそびの場」として再構築する。川を挟んで分断されがらだった東西のエリアを、互いの様子が視覚的に感じられるように整備し、橋や視線の抜けを活かして一体的な公園空間を形成する。

